



視点 2

三度の食事を365日、
欠かすことなく
お届けするために

全国規模で医療・福祉・保育施設の 食事サービスを提供するために、 事業継続計画を強化しました。

日清医療食品は、お客様の命をつなぐ「食事」をお届けするために、
地震対策マニュアルを定めるとともに、災害対策訓練を実施するなど
事業継続のための施策を強化し続けています。



営業本部
受託管理部 管理企画課 主任
府川 幸広
ふかわ ゆきひろ



地震対策マニュアル

東日本大震災を踏まえて BCP強化に着手

日清医療食品は、医療・福祉・保育施設向けに全国規模で食事サービスを提供しています。そんな当社が自然災害あるいはその他の危機発生により事業が停止するようなことになれば、サービスを受けるユーザーの皆様命に関わる事態となってしまいます。どんな非常事態に陥っても確実に食事サービスを提供し続けること、それが私たちの最も大きな社会的責任だと考えています。

ところが、2011年3月に発生した東日本大震災では、予期しない事態が起こりました。準備していた「危機対応マニュアル(2010年策定)」に沿って近隣のご契約先事業所や

物流拠点から被災地の拠点に迅速に食材を供給できたところもありましたが、広大な地域が被災しており、ガソリンも電気もない状況のなか、支援したくてもできない拠点があつたのです。

そこで、こうした問題を抜本的に解決するために、4月に副社長が委員長となり、さまざまな部署の担当者が参加する「災害対策委員会」を立ち上げ、1年かけてマニュアルの全面改訂に取り組みました。その成果の一つが2012年4月に完成した「地震対策マニュアル」です。今後、震度6弱以上の地震発生時では、このマニュアルに沿って本社・支店・ご契約先事業所が連携しながらの対策が実施されることになります。

全国のサービス拠点の事業継続に向けて、4つの施策を推進

マニュアルでは、事業継続に向けて大きく4つの施策を強化しました。

1 非常用備蓄倉庫の設置

まず、全国13カ所の倉庫に「非常用備蓄倉庫」を設置しました。ライフラインが寸断された場合でもすべてのサービス地域でスムーズに食事提供できるよう、消耗品を含む非常用品を備蓄しています。

2 災害時献立の考案

食材については、大規模な震災時には発生から本格的な支援開始まで3日程度

非常用備蓄品を備えた物流倉庫

非常用備蓄品



- ・備蓄用水(2リットル)
- ・ディスク蓋付椀
- ・カセットコンロ
- ・カセットボンベ
- ・食品用ラップフィルム
- ・ガソリン缶
- ・プラスチックコップ
- ・先割れスプーン
- など



非常用備蓄倉庫



MCA無線機

かかるという教訓を踏まえて、火や水を使わずに食べられる「災害時献立」を3日分備蓄することをお客様に提案しています。調理法や賞味期限など多くの制約があるなかで栄養を整えた献立を成立させるのは難しく、試行

錯誤の連続でしたが、当社の長年の経験・ノウハウを活かした非常食を用意しました。これからもお客様への提案を継続し、危機対応の強化を図りたいと考えています。

3 ヘリコプター運用会社との契約締結

さらに、東日本大震災の際、物資の被災地への搬送方法に課題を残したことから、陸路が寸断されても物資運搬ができるよう、ヘリコプター運用会社2社と非常時対応契約を締結しました。

4 通信手段の強化

通信手段も強化しました。東日本大震災では固定電話や携帯電話が不通になり、社員間や支店・ご契約先事業所間の連絡が

寸断されてしまいました。そこで、全国の支店にMCA無線を導入するとともに大容量の蓄電池を配備しました。また、被災状況を素早く確認するため、ご契約先事業所責任者の携帯電話を利用した「安否確認システム」も導入しました。



ヘリコプター運用会社と非常時対応契約を締結
(ヘリ収納場所：東京、仙台、名古屋、大阪)

災害時献立 (献立内容については見直す可能性があります)

1日目

朝	・レトルト粥	1P
	・ツナフレークライトツナ チャンク1705g	20g
	・野菜ジュース190ml	1本
エネルギー 221kcal たんぱく質 9.1g 脂質 3.4g 食塩相当量 0.4g		
昼	・レトルト粥	1P
	・焼き鳥(たれ)	65g
	・コンポート(みかん缶)	40g
エネルギー 226kcal たんぱく質 10.5g 脂質 4.3g 食塩相当量 1.3g		
夕	・レトルト粥	1P
	・さんまの蒲焼き	1尾
	・ふりかけ(かつおごま)	1個
エネルギー 182kcal たんぱく質 6.3g 脂質 5.9g 食塩相当量 0.9g		



2日目

朝	・レトルト粥	1P
	・かつお茶つけ	20g
	・野菜ジュース190ml	1本
エネルギー 195kcal たんぱく質 6.4g 脂質 1.2g 食塩相当量 0.6g		
昼	・レトルト粥	1P
	・さばの味噌煮	1切れ
	・みつ豆	40g
エネルギー 229kcal たんぱく質 10.2g 脂質 5.1g 食塩相当量 0.5g		
夕	・レトルト粥	1P
	・焼き鳥(塩)	65g
	・ふりかけ(しそ)	1個
エネルギー 196kcal たんぱく質 12.3g 脂質 4.8g 食塩相当量 0.3g		



3日目

朝	・レトルト粥	1P
	・ツナフレークライトツナ チャンク1705g	20g
	・野菜ジュース190ml	1本
エネルギー 221kcal たんぱく質 9.1g 脂質 3.4g 食塩相当量 0.4g		
昼	・レトルト粥	1P
	・さんまの蒲焼き	1尾
	・フルーツカクテル	40g
エネルギー 203kcal たんぱく質 5.8g 脂質 5.4g 食塩相当量 0.3g		
夕	・レトルト粥	1P
	・とりそばろ	45g
	・ふりかけ(野菜わかめ)	2.5g
エネルギー 187kcal たんぱく質 8.5g 脂質 4.6g 食塩相当量 1.0g		



風化を防ぎ、ノウハウを蓄積する「災害対策訓練」を継続していく

今後は新しい地震対策マニュアルに基づいて、本社と支店、ご契約先事業所、そしてお客様が連携する災害対策訓練を定期的実施してまいります。訓練を積み重ねることによって震災の記憶の風化を防ぎ、またマニュアルの運用面での不備・改善点を抽出しながら拠点間の連携ノウハウを蓄積してまいります。そして、定期的に開催される災害対策委員会でも共有することで全社的な地震対策のレベルアップを図ってまいります。

最後に、マニュアルや具体的な施策の整備・強化はもちろんですが、私たちの事業ではサービスを提供する施設の条件・状況が一つひとつ異なるため、危機管理については現場スタッフの柔軟な対応が極めて重要になります。今後も全国の仲間とともに、トップ企業としての責任を果たし、お客様から「日清医療食品に任せれば安心」と評価いただけるよう、個別ケースの情報共有など危機管理対策の強化に取り組んでいきたいと思っております。

2012年12月6日、地震対策マニュアルに基づいて災害訓練を実施しました。

訓練では、「5時30分に相模灘を震源とする震度6強の地震が発生」「すべてのライフラインが寸断」「津波や土砂崩れが発生」などを想定し、災害対策委員会の設置や安否確認システムの稼働、MCA無線による被害状況の把握などを実施したほか、ヘリコプターを活用して備蓄倉庫から被災地への支援物資の搬送を実施。被災地で食事を提供するまでを実地訓練しました。



ヘリコプターでの積み下ろし



ランタンの明かりで調理

パンデミックに備えて

世界的な人口の増加、都市への人口集中、交通機関の発達などから、新型インフルエンザなどの感染症が短期間に地球全体に蔓延し、パンデミック(感染症などの爆発的流行)が起こる危険性が高まっています。企業においても職場で集団感染が発生した場合など業務遂行に大きな影響が生じる可能性があり、感染症対策は重要な課題となっています。日清医

療食品では、2009年の新型インフルエンザの流行以降、危機管理の一環として感染症対策の整備に取り組み、現在では、職場スタッフの3割が感染により出勤できない状況を想定し、少人数でも調理可能な簡素化(調理済み)メニューを2週間分用意しているほか、各支店にサージカルマスク(主に医療現場で用いられる衛生用マスク)を備蓄することで緊急事態

に備えています。新型インフルエンザ対策に関しては、2011年9月に政府が行動計画を改訂し、具体的な対策は感染状況に応じて都道府県が選択することになりました。今後、各自治体が作成する行動計画・マニュアルに基づき、当社も現状の対策の見直しに着手する予定です。

Voice 社会福祉法人 杜の里福祉会様

震災発生直後から3ヵ月もの間、一緒に寝泊りしながら「食」を提供し続けていただきました。



社会福祉法人 杜の里福祉会 総務部 副部長 川原 伸章 様
かわはら のぶあき

社会福祉法人 杜の里福祉会 専務理事 施設長 佐藤 久義 様
さとう ひさよし

社会福祉法人 杜の里福祉会 副施設長 介護支援専門員 皆川 広美 様
みながわ ひろみ

「あの日、東日本大震災の発生によって、仙台市若林区にあり、沿岸部から約2キロほどしか離れていない当施設は、津波によって厨房のある1階部分がすべて浸水しました。幸いにも入居者の方々や職員は無事でしたが、自衛隊の皆さんが施設の前に道をつくってくれるまでの3日間ほどは、施設内にいる職員と日清医療食品さんの常駐スタッフが各ユニット部屋にある冷蔵庫などから食材を集めて食事を切り盛りしました。おにぎり1個を半分に分け合うなど細々とした食事でしたが、皆で力を合わせて約200名ほどの入居者全員が何とか継続的に食事をとることができました。また、道ができた後も、日清医療食品さ

んには仙台支店や本社の方と積極的に連絡を取り合っていたり、バック入りの非常食などを積極的に運んでいただきました。加えて、日清医療食品さんの提案で、2階の事務所の一角にカセットコンロや鍋釜を集めた簡易キッチンを用意。入居者のことを踏まえて非常食を柔らかくしてから提供するなどの工夫をしていただきました。また、10日後くらいには生野菜も提供いただくなど、入居者一人ひとりの食の好みや栄養状態について日頃からきちんとケアしていただく日清医療食品さんらしいきめ細かなアイデア、心温まる配慮に本当に感謝しています。施設では、震災発生後、日々の食事以外にも、寝る場所や寝具

の確保、排泄問題の解決など、やるべきことが山積していました。こうしたなか、食材の手配だけでなくその仕分けなどの整理・保管のルール決め、調理から配膳まで、一緒に3ヵ月ほど寝泊りしながら活動していただいた日清医療食品のスタッフの皆さんは、私どもの施設のモットーである「一つ屋根のもと全員が力を合わせて入居者をケアする」をまさに体現していただいたと思っています。これからも、良きパートナーとして、地域コミュニティになくてはならない施設となるよう運営方法をともに考え、行動していきたいと思っております。」



被災の状況



簡易キッチン



食材の手配